

令和元年度（平成31年度）「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 平成31年4月16日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

(1)教科に関する調査

○調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～6学年> 国語、社会、算数、理科

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

品川区立台場小学校

【国語科】

1. 結果の概要

台場小学校では、平成30年度の結果から各学年次の指導に重点を置くことにした。

- ・2年生では、ペアやグループ活動などの少人数の活動を通して、『話す・聞くこと』への経験を増やしていく。
- ・3年生では、授業の感想など文章を書く機会を増やし、繰り返し書く経験を重ねて定着を図る。
- ・4年生では、文章を読み取るための観点を、2学期教材の学習を通して指導していく。
- ・5年生では、図書の時間だけでなく、休日などを利用して家庭でも読書をする習慣化を図る。
- ・6年生では、読み取ったことをクラスで共有したり、発表させたりする。
- ・全学年において、学習した漢字を他教科の学習でも使用する指導をしていく。

以上の取り組みを通して、令和元年度『品川区学力定着度』は以下のような結果となった。

観点別…総合的にみると、すべての学年で目標値と同程度という結果となった。

国語への関心・意欲・態度：3つの学年で目標値より下回っている。2つの学年で目標値を上回っている。

話す・聞く能力：すべての学年で目標値より上回っている。

書く能力：2つの学年で目標値と同程度。3つの学年で目標値を下回っている。

読む能力：4つの学年で目標値と同程度。1つの学年で目標値を下回っている。

言語についての知識・理解・技能：4つの学年で目標値と同程度 1つの学年で目標値を下回っている。

基礎・活用別…総合的にみると、ほぼ目標値と同程度という結果となった。

基礎的な問題：1つの学年で目標値を上回り、4つの学年で目標値と同程度。

活用の問題：4つの学年で目標値と同程度。1つの学年で目標値を下回っている。

経年変化…昨年度の標準スコアと比べて、2つの学年が上回り、2つの学年が下回る結果となった。

2. 具体的な課題

- ・2年生では、「読むこと」「書くこと」に課題がある。
- ・3年生では、「作文」の分野と「漢字を書く」ことに課題がある。
- ・4年生では、「文の構成」の分野に課題がある。
- ・5年生では、「言語理解、技能」の分野と「漢字を書く」に課題がある。
- ・6年生では、「漢字を書く」「作文」「大事なことの読み取り」の分野に課題がある。
- ・全学年において、漢字を書くことに課題が見られた。また、2年生は基礎、6年生は基礎・活用に課題がある。

3. 課題の原因として考えられること

- ・2年生では、文章のつながりや構成が理解できていない。
- ・3年生では、語彙力が乏しい面があり、自分の考えを表現することが難しい。書くことに慣れていない。
- ・4年生では、文の構成を理解していない。自分の言葉で文章を書くことが苦手。
- ・5年生では、語彙が少なく、使用していない言葉の知識や活用能力が不十分。
- ・6年生では、大切なことを読み取ることができない。言葉の知識、理解が不十分。
- ・全学年において、漢字や言葉などを使う機会が少ない。

4. 課題解決のための方策

- ・2年生では、簡単な文章を書く機会を増やし、練習を重ねていく。学習の中で、文章の構成や語彙を確認する。
- ・3年生では、国語辞典を活用し、短作文を通して語彙力を増やしていく。
- ・4年生では、日記や感想文などで、文章を書く機会を増やしていく。学習の中で、主語や述語の関係を確認する。
- ・5年生では、日常的に短作文などを行い、文書表現に慣れさせ、活用できるようにする。
- ・6年生では、要旨をまとめたり、授業の感想を書く機会を増やしたりしていく。
- ・全学年において、学習した漢字を他教科の学習でも使用したり、定期的に復習したりして定着を図る。

5. 次年度の数値目標

国語	目標正答率					
	区分	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
基礎・活用	教科全体	73%	79%	70%	67%	64%
	基礎	79%	84%	71%	71%	69%
	活用	61%	57%	63%	48%	50%
領域	話すこと・聞くこと	68%	92%	69%	57%	75%
	書くこと	70%	48%	65%	54%	57%
	読むこと	65%	77%	61%	75%	69%
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	91%	92%	77%	71%	64%
観点	国語への関心・意欲・態度	70%	65%	70%	56%	63%
	話す・聞く能力	68%	83%	69%	57%	61%
	書く能力	65%	52%	63%	49%	58%
	読む能力	64%	69%	60%	70%	64%
	言語についての知識・理解・技能	89%	91%	76%	70%	64%

【算数科】

1. 結果の概要

台場小では、平成30年度の結果から、算数的活動や具体的操作活動を取り入れ、自力解決の時間を確保してきた。また、月1回程度の放課後学習や土曜日の補充学習、ステップの時間などを設定し、既習内容をくり返し学習してきた。

以上の取り組みを通して、令和元年度『品川区学力定着度』は以下のような結果となった。

観点別…総合的にみると、2つの学年で目標値と同程度、3つの学年で目標値を下回る結果となった。

算数への関心・意欲・態度：1つの学年で目標値と同程度 1つの学年で目標値を上回り、3つの学年で下回っている。

数学的な考え方：3つの学年で目標値と同程度 2つの学年で目標値を下回っている。

数量や図形についての技能：1つの学年で目標値と同程度 1つの学年で目標値を上回り、3つの学年で下回っている。

数量や図形についての知識・理解：1つの学年で目標値と同程度 1つの学年で目標値を上回り、3つの学年で下回っている。

基礎・活用別…総合的にみると、2つの学年で目標値と同程度、2つの学年で目標値を下回る結果となった。

基礎的な問題：2つの学年で目標値と同程度。3つの学年で目標値を下回っている。

活用の問題：4つの学年で目標値と同程度。1つの学年で目標値を下回っている。

経年変化…昨年度の標準スコアと比べて、1つの学年が上回り、2つの学年が下回った。

2. 具体的な課題

- ・ 2年生・・・一桁の加法減法、位取り、文章問題、立体や平面図形の読み取りに課題が見られた。
- ・ 3年生・・・加法の結合法則、時刻と時間、はこの形（辺の数、辺の長さ）に課題が見られた。
- ・ 4年生・・・除法の立式、乗法の計算の工夫、棒グラフの読み取りに課題が見られた。
- ・ 5年生・・・四則計算全般に課題があった。
- ・ 6年生・・・小数や分数の計算、整数の性質といった基本的な問題、百分率やグラフの読み取りに課題が見られた。

3. 課題の原因として考えられること

- ・ 2年生・・・工夫して計算することが苦手、形に触れるなどの実体験が少ない。
- ・ 3年生・・・立式の根拠を理解していない、求め方を文に書く経験が少ない。解答の仕方がわからない。
- ・ 4年生・・・立式の根拠を理解していない、求め方を他者に説明する経験が少ない。基礎学力が定着していない。
- ・ 5年生・・・基礎的な計算が定着していない。
- ・ 6年生・・・基礎的な計算が定着していない。

4. 課題解決のための方策

- ・ 2年生・・・具体物を使って計算できるようにする。生活と結び付けながら復習していく。
- ・ 3年生・・・答えの根拠となる理由を説明する活動やより良い解き方を考えさせる活動を取り入れる。九九などの基礎的な計算を定着させる。教科書の問題を確実に解けるように反復する。
- ・ 4年生・・・教科書の問題を確実に解けるように反復演習を行う。
自分の考えを友達に伝える活動を取り入れ、相手にわかりやすく説明する経験を重ねる。
- ・ 5年生・・・四則計算の反復練習、具体物や具体例を用いて指導を行う。
- ・ 6年生・・・東京ベーシックドリルを活用し苦手な問題を中心に解き方を理解する。

5. 次年度の数値目標

算数	目標正答率					
	区分	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
基礎・活用	教科全体	85%	79%	79%	61%	64%
	基礎	87%	83%	83%	65%	67%
	活用	71%	56%	61%	52%	48%
領域	数と計算	87%	79%	79%	69%	61%
	量と測定	83%	78%	77%	49%	70%
	図形	67%	79%	83%	45%	72%
	数量関係			82%	58%	55%
観点	算数への関心・意欲・態度	75%	68%	71%	46%	41%
	数学的な考え方	74%	67%	66%	56%	55%
	数量や図形についての技能	88%	84%	82%	62%	65%
	数量についての知識・理解・技能	85%	77%	78%	61%	72%

【社会科】

1. 結果の概要

台場小では、平成30年度の結果から、次の6つの指導に重点を置くこととした。

①3～6年まで基礎基本となる知識・技能を系統的・計画的に指導し、定着させる。②資料の読み取りに必要な円グラフや棒グラフなどの最低限の知識や技能を算数などの他教科と関連させながら習得させる。③学習資料を活用し、1つの資料だけではなく、複数の資料を読み取る力を習得させる。④自分の考えをもたせ、表現させる時間を確保する。以上の取り組みを通して学習を行ってきたが、令和元年度『品川区学力定着度』は以下のような結果となった。

観点別…総合的にみると、1つの学年で目標値と同程度、2つの学年で目標値を下回る結果となった。

社会的事象への関心・意欲・態度：2つの学年が目標値を上回っており、1つの学年で目標値を下回っている。

社会的な思考・判断・表現：2つの学年が目標値と同程度。1つの学年で目標値を下回っている。

観察・資料活用の技能：1つの学年が目標値と同程度。2つの学年で目標値を下回っている。

社会的事象についての知識・理解：1つの学年が目標値と同程度。2つの学年で目標値を下回っている。

基礎・活用別…総合的にみると、1つの学年で目標値と同程度、2つの学年で目標値を下回る結果となった。

基礎的な問題：1つの学年が目標値と同程度。2つの学年で目標値を下回っている。

活用の問題：1つの学年で目標値を上回っている。2つの学年で目標値を下回っている。

経年変化…昨年度の標準スコアと比べて、3つの学年が上回った。

2. 具体的な課題

4年生 地図中の方位、「買い物調べ」に資料などの、資料の読み取りが苦手。技能面と思考面を強化していく必要がある。

5年生 「ごみのしよりと利用」、「地いきのはってんにつくした人々」の単元が苦手。

6年生 世界の大陸や日本の産地などの具体的な知識の定着が不十分。農業や水産業、工業などの具体的な働きや役割などの理解が不十分。

3. 課題の原因として考えられること

4年生 地図を読み取ることに課題が見られる児童が多い。地図や資料から事実は読み取れても、そこからどんなことが言えるか考えることが苦手。

5年生 図や表などの資料の読み取りが苦手で、映像を見たりや施設を見学したりするなどの具体的な機会が少なく、全体像がとらえづらいと感じる。

6年生 基本的な社会的な用語を使用する経験が少ない。グラフや表などの資料の読み取りが苦手。普段の生活と関連付けてイメージすることができない。

4. 課題解決のための方策

4年生 地図記号や社会的な用語の定着を図るために、反復的な学習を行う。資料の見方を提示し、基本的な資料の読み取りが行えるようにする。

5年生 映像や施設見学などを通して、具体的に社会事象を理解できるようにしていく。表やグラフなどの読み取りに必要な視点を提示し、事象の特徴や変化を読み取れるようにする。

6年生 写真資料や世界地図などの具体的な学習教材を活用した授業を行う。表やグラフなどの読み取りに必要な視点を提示し、事象の特徴や変化を掴み、その変化の原因や推移を考えられるようにする。

5. 次年度の数値目標

社会	目標正答率			
分類	区分	4年生	5年生	6年生
基礎・活用	教科全体	71%	55%	58%
	基礎	71%	55%	56%
	活用	50%	45%	58%
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	60%	57%	54%
	社会的な思考・判断・表現	64%	57%	54%
	観察・資料活用	70%	51%	57%
	社会的事象についての知識・理解	70%	58%	57%

【理科】

1. 結果の概要

台場小では、平成30年度の結果をから、次の5つの指導に重点を置くこととし、これまで一人一人に教材を与え、全員が教材に十分触れるようにしてきた。また、方位磁石やモーターや乾電池、回路など働きを調べ、教材に十分に触れ、実験の結果、考査、まとめをノートに確実にまとめることで理解を深めることに取り組んできた。

- ①身近な自然を対象として、自らの諸感覚を働かせた体験を通じて主体的に問題を見いだせるようにする。
- ②自然についての興味・関心を持ち、既習の知識や技能、学び方などを活用し、科学的な見方や考え方を再構築させるようにする。
- ③自然の事物・現象を的確に捉え、課題を明確にした観察、実験を重視した授業を展開する。
- ④学んだことを生活に生かしていくよう、理科の学習と日常生活との関連を図った内容や方法を充実できるように工夫する。
- ⑤「台場授業メソッド（問題解決学習）」を導入し、考えたり、説明したり、話し合ったりする場を設定し、問題解決する力を身に付けさせる。

平成31年度『品川学力定着度調査』で以下のような結果となった。

観点別…総合的にみると、1つの学年で目標値を上回り、2つの学年で目標値を下回る結果となった。

自然事象への関心・意欲・態度：1つの学年上回り、2つの学年で下回っている。

科学的な思考・表現：1つの学年で同程度、2つの学年で下回っている。

観察・実験の技能：3つの学年すべてで下回っている。

自然事象についての知識・理解：1つの学年上回り、2つの学年で下回っている。

基礎・活用別…総合的にみると、1つの学年上回り、2つの学年で下回っている。

基礎的な問題：1つの学年が目標値を上回り、2つの学年で目標値を下回っている。

活用の問題：1つの学年で目標値を上回り、2つの学年が下回っている。

経年変化…昨年度の標準スコアと比べて、1つの学年が上回り、1つの学年が下回る結果となった。

2. 具体的な課題

- ・4年生では、「植物の育ち方」など内容や実験方法を理解することに課題がある。
 - ・5年生では、全体的に課題があり、特に「物のあたためり方」や「天気のようにすと気温」などに課題がある。
 - ・6年生では、全体的に課題があり、特に「天気の変化」や顕微鏡の使い方に課題がある。
- 以上のように基礎的、基本的な知識理解をはぐくむことに課題がある。

3. 課題の原因として考えられること

- ・4年生では、実験や観察などを行う過程で、正しい方法ややり方について自分で考える経験が少ない。
- ・5年生では、日常生活で見慣れない事象や概念をイメージする感覚が乏しい。
- ・6年生では、天気の観察などを続けて観察する経験がとぼしく、顕微鏡やスライドガラスを使う経験が少ない。

4. 課題解決のための方策

- ・4年生では、実験・観察といった体験的な活動を今後も取り入れ、結果からわかることを理科で学習する用語で記述させたり、説明させたりしていく。
- ・5年生では、実験時に観察するポイントやねらいを明確にすることでイメージを膨らませることができるようにし、実験だけでなく、映像やICT機器などを使い、理解を深められるようにしていく。
- ・6年生では、継続して観察したり、気づいたことをまとめたりすることができるよう、計画的に指導を行うことや、実験の仕方や手順をしっかりと理解させた上で学習を行う。

5. 次年度の数値目標

理科	目標正答率			
分類	区分	4年生	5年生	6年生
基礎・活用	教科全体	63%	67%	60%
	基礎	66%	71%	66%
	活用	64%	54%	43%
領域	物質・エネルギー	60%	62%	48%
	生命・地球	67%	72%	66%
観点	自然事象への関心・意欲・態度	62%	63%	61%
	科学的な考え方	58%	63%	57%
	観察・実験についての技能	66%	75%	44%
	自然事象についての知識・理解	64%	68%	63%